



道しるべ



令和8年5月20日(水)

文章責任者：進路指導部

評価・評定について

定期考査まで残り1か月となります。自分の得意不得意を知り、計画的に学習することが大切です。また、評価について十分に理解し、それに合わせた対策をすることも重要になってきます。「A」「B」「C」といった評価や、「1」「2」「3」「4」「5」の評定について理解すると、自分の現状を知ることができ、次の目標を立てて学習に取り組めるようになります。今回の進路だよりで、改めて確認していきましょう。

評価・評定とは、学習の実現状況を把握するものであり、学習活動を励まし、資質・能力を伸ばすことを目的としています。本校では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、毎学期末に通知表に記載します。

それぞれの観点について、以下のようにA・B・Cの三段階で評価します。

基準	達成度 (%)	評価
十分満足できる	80%以上	A
おおむね満足できる	50%以上 80%未満	B
努力を要する	50%未満	C

また、これらの観点別の評価を合わせて、学習状況全般をまとめたものを数値で表したのが「評定」です。評定については、以下のように5段階で行います。

基準	達成度 (%)	評定
十分満足できるもののうち、特に高い程度のもの	90%以上	5
十分満足できる	80%以上 90%未満	4
おおむね満足できる	50%以上 80%未満	3
努力を要する	20%以上 50%未満	2
一層努力を要する	20%未満	1

それでは、実際の評価・評定の出し方をもう少し詳しく見てみましょう！

観点	評価材料	満点	実際の得点例	合計点	達成度	評価	評定
知識・技能	実験レポート (15点)	80点	実験レポート (7点)	64点	80%	A	4
	小テスト (25点)		小テスト (17点)				
	定期考査 (40点)		定期テスト (40点)				
思考・判断・表現	小テスト (40点)	100点	小テスト (22点)	82点	82%	A	
	定期考査 (60点)		定期テスト (60点)				
主体的に学習に取り組む態度	ノート点 (60点)	150点	ノート点 (56点)	141点	94%	A	
	小テスト (45点)		小テスト (42点)				
	課題への取り組み (45点)		課題への取り組み (43点)				

この例では、「知識・技能」が80点満点中64点なので、達成度は80%→つまり、評価はAとなります。「思考・判断・表現」も同様に、100点満点中82点で達成度は82%→評価A。「主体的に学習に取り組む態度」は、150点満点中141点で達成度は94%→評価A。

3つの観点全てがAとなりましたが、達成度の平均は、 $(80\% + 82\% + 94\%) \div 3 = \text{約} 85\%$ となり、評定は「80%以上 90%未満」の「4」となります。このように、全ての観点が「A」でも、評定が「4」になります。

「2」は「20%以上 50%未満」、「3」は「50%以上 80%未満」とそれぞれ範囲が広いのも注意が必要です。達成度の平均が50%の人と79%の人は両方とも「3」になります。「テストの点数が上がり、レポート等の評価も上がっているのに、ずっと『3』のまま」、という場合は、達成度は上がってはいるものの、80%以上にはなっていない、ということです。

テストも観点別に小計を取って評価していくので、例えば【「知識・技能」が60点、「思考・判断・表現」の問題が40点の配分】だった場合、合計90点取ったとしても、10点の失点が全て「知識・技能」の問題だと、「60点満点中50点」で「知識・技能」のテストの項目は「83%」の達成度になってしまいます。

ここに記載した内容はあくまで一例なので、実際には、定期考査をはじめ授業中におけるレポートや小テスト、学習課題への取り組み状況など多くのものを評価材料としています。テストで100点取れていたとしても、レポート等の評価も全て合わせて90%以上の達成度にならないと「5」にはなりません。5月1日にクラスルームに配信された「学習の手引き」をよく読んで、各教科の学習のポイントや評価材料を理解して授業に臨むとよいです。私立高校については、推薦の基準に評定の数値が含まれることも多いので、昨年度の評定を確認し、今の自分にできる学習への取り組み方を見直してみましょう。

(→裏面あり)

奨学金について

あしなが高校(高等学校)奨学金と交通遺児育英会奨学金制度について情報が届いています。詳細は進路のクラスルームや学年の廊下の掲示板に掲載します。自分が対象者かどうか確認してください。

奨学金には、卒業後に返還が必要な「貸与型」だけでなく、返還の必要のない「給付型」もあります。対象の条件を満たし、審査を通過することで貸与や給付を受けることができます。

学校に届くお知らせについては、今回のように、進路だよりや進路のクラスルーム、学年の廊下の掲示板を中心にお知らせしていきます。他にも様々な奨学金があるので、調べてみてください。どの奨学金制度に申し込むかまだ決まっていなくても、「奨学金を考えています」といった簡単な報告で構いませんので、早めに担任に相談してください。

生徒のみなさんへ コラム③

教育実習の先生方に聞いた！「あなたの進路の決め方」

先週から教育実習がスタートしました。今年度は三中に4名の実習生が来ています。数学科のG先生は3年D組が担当学級なので、3年生と関わる機会も多くなっていきます。

教育実習はたった2、3週間ですが、その間の生徒との出会いや経験は、忘れられない特別なものになることが多いです。

そんな実習生のみなさんに、高校もしくは大学の学校選びについて教えていただきました。みなさんの進路選択のヒントがあるかもしれません。

G 先生（3学年・数学科）

家から近く、自転車で通える範囲で調べました。二つの学校の見学に行き、雰囲気が自分に合う学校に決めました。子どもと関わるのが好きで保育士になりたいと思っていましたが、中学の先生との出会いをきっかけに、中学校の教員を目指すようになりました。

M先生（2学年・音楽科）

私は音楽について勉強したかったので、音楽科のある高校へ進学しました。その高校は音楽のことは深く学べるのですが、一般的なことの学習についてはあまり学ぶことができませんでした。普通科の高校でも良かったのかなと思うこともありますが、高校から専門的な知識を得られたことは大きかったです。習いたい先生がいることや周りの人が行っていること、親からの勧め、また、家からの近さが受験の決め手になりました。

Y先生（2学年・保健体育科）

私は“自由な校風”にとっても憧れていたため、校則や明るい雰囲気等重要視して高校を探していました。自宅から近く、自由な校風だと聞いたことのある高校の文化祭に行った際に、生徒の皆さんがそれぞれのお店やコスプレを楽しんでいる姿がキラキラして見えました。まさに、私が理想としていた姿だったため、志望校に決めました。

M先生（1学年・社会科）

大学への進学を考えていたので、学力に合った高校を選びました。将来の方向性を明確に決められていなかったため、大学の附属高は受験しませんでした。

大学受験の際は、職業を意識して法学部と教育学部のある大学を受験し、合格した大学に進学しました。

興味のある仕事をいくつか見つけて、必要な資格や学歴を考えながら、進路を考えるとよいと思います。

「自分の興味」「将来の方向性（就きたい職業など）」「学校の雰囲気」「家からの距離」等を参考にすることが多いようです。まず自分の興味や関心についてよく考えた上で、**実際に学校を見学したり、よく学校について調べてみたりすることが重要になってきます。**複数の上級学校から、説明会のお知らせが学校に届いているので、進路コーナーや各クラスの進路BOX、進路クラスルーム等から情報を集め、自分から行動を起こしてみましよう！

（進路指導部）